

平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)

| | | | | | | | |
|-----------------------------------|--|------------------------|---|--|-------------|---|-------------------|
| 事業名 | 国際原子力人材育成イニシアティブ (東日本大震災復興特別会計) | 担当部局庁 | 研究開発局 | 作成責任者 | | | |
| 事業開始・終了(予定)年度 | 平成24年度 | 担当課室 | 原子力課 | 原子力課長 | 増子 宏 | | |
| 会計区分 | 東日本大震災復興特別会計 | 政策・施策名 | 科学技術の戦略的重点化 X-5 原子力分野の研究・開発・利用(紛争解決を含む)の推進 | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | — | 関係する計画、 通知等 | 原子力政策大綱(平成17年10月原子力委員会、閣議決定) | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3程度以内) | 原子力の基盤と安全を支えていくためには、現場技術者から最先端の研究を実施する研究者、更には危機管理能力を有する人材まで幅広い原子力人材を継続的に育成・確保する必要がある。一方、原子力教育を行う講師や原子力施設は、限定的であることから、産学官の原子力関係機関が連携することにより、効果的・効率的・戦略的に人材育成を行う機関横断的な事業を支援し、将来の原子力分野の担い手となる優秀な人材を育成・確保する。特に、本事業では、福島原子力発電所事故の教訓や国際的な原子力安全の議論等を踏まえ、原子力の安全・危機管理等に係る人材を重点的に育成する。 | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | 本事業は、大学、高等専門学校、独立行政法人、民間企業等を対象とし、福島原子力発電所事故を踏まえ、原子力の安全や危機管理に係る人材育成活動とともに、環境放射能測定や除染、溶融燃料の処理・処分を含めた廃止措置など新たな中長期的な課題に対応するための人材育成活動等を支援する。なお、平成25年度より「国際原子力人材育成イニシアティブ(一般会計)」と統合している。補助事業は、広く一般から公募を実施し、外部有識者からなる審査評価委員会の審査を経た上で、選定する。(補助率:定額) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度要求 | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | | | 240(復興特会計上) | | |
| | | 補正予算 | | | 0 | | |
| | | 繰越し等 | | | 0 | | |
| | | 計 | | | 240(復興特会計上) | | |
| | | 執行額 | | | 212 | | |
| | 執行率(%) | | | 88.5% | | | |
| 成果目標及び成果実績 (アウトカム) | 成果指標 | | 単位 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 目標値 (年度) |
| | 本補助金により、原子力の安全や危機管理に係る人材や、環境放射能測定や除染、溶融燃料の処理・処分を含めた廃止措置など新たな中長期的な課題に対応するための人材を計画的に育成することを目的とする。 | | 成果実績 | | | 事業実施例:①サーベイメータを用いたホットスポットの線量率計測実習や、②柏崎刈羽原子力規制事務所でTV会議システムなどの機材を用いた避難誘導等の危機管理ロールプレイング、③シビアアクシデント時のセシウム挙動に関する理解を深めるための演習教材開発等を実施した。平成24年度は①に教員5名、大学生18名、高専学生9名、②に教職員3名、大学院生9名が参加した。(長岡技術科学大学) | |
| | | 達成度 | % | | | — | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度活動見込 |
| | (A)復興対策特別人材育成事業 (平成25年度は一般会計に移替え) (新規課題数/継続課題数) | | 活動実績 (当初見込み) | 課題数 | | | 14/0 (8/0) |
| 単位当たりコスト | 15(百万円/課題) | | 算出根拠 | 平成24年度の執行額を同年度における実績課題数で除した。 212百万円 / 14課題 = 15百万円 / 課題 | | | |
| 平成25・26年度予算内訳 | 費目 | 25年度当初予算 | 26年度要求 | 主な増減理由 | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 計 | | | | | | |

| 事業所管部局による点検 | | | | | | |
|---|--|------------------------|------------|---|----------|--|
| | | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 | | |
| 国費投入の必要性 | 広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。 | | ○ | 原子力人材育成の重要性・必要性は、「IAEA閣僚会議に対する日本国政府の報告書(平成23年6月原子力災害対策本部)」等に表示されているなど、政策の優先度が高い事業である。また、将来の優秀な原子力人材を育成することは、原子力の安全を確保する上で基盤となるものであり、国が実施すべき事業である。 | | |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | | ○ | | | |
| | 明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。 | | ○ | | | |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | | ○ | 支出先の選定に当たっては、十分な募集期間を確保した上で、第三者の有識者委員会にて審査を実施している。また、費目・用途については、補助金申請の段階で補助事業との関係を詳細に確認するとともに、書面調査及び現地調査により額の確定行為を実施し、全ての支出先・用途の把握することとしている。 | | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | | ○ | | | |
| | 単位当たりコストの水準は妥当か。 | | ○ | | | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | | ○ | | | |
| | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | | ○ | | | |
| 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | | — | | | | |
| 事業の有効性 | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | | ○ | 実際に原子力や放射線教育を実施している大学や高等専門学校等を対象とした補助事業であり、実効性の高い事業となっている。 | | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | | ○ | | | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | | ○ | | | |
| 重複排除 | 類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | | ○ | 平成24年度に本事業を立ち上げたため、「国際原子力人材育成イニシアティブ(一般会計)」の平成24年度新規課題の公募は行わないこととし、事業の重点化を図った。 | | |
| | 事業番号 | 類似事業名 | 所管府省・部局名 | | | |
| | 0266 | 国際原子力人材育成イニシアティブ(一般会計) | 文部科学省 原子力課 | | | |
| 点検結果 | <p>・平成24年度の公募にあたっては、東京電力福島原発事故を踏まえ、原子力の安全や危機管理に係る人材育成活動とともに、環境放射能測定や除染、溶融燃料の処理・処分を含めた廃止措置など新たな中長期的な課題に対応するための人材育成活動を重点的に支援するという方針の下に、十分な募集期間を確保した上で、第三者の有識者委員会にて審査を経て、支出先を選定した。さらに交付決定をする上で、事業計画内容を確認し、より効果的、効率的な人材育成が達成できるよう指導を行っている。</p> <p>・執行に当たっては、費目・用途について補助金申請の段階で補助事業との関係を詳細に確認するとともに、書面調査及び現地調査により額の確定行為を実施し、全ての支出先・用途の把握を行っている。</p> | | | | | |
| 外部有識者の所見 | | | | | | |
| 外部有識者による点検対象外 | | | | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | | | | |
| 平成25年度より「原子力人材育成イニシアティブ(一般会計)」に統合したことから、平成24年度をもって廃止している。 | | | | | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | | | | |
| - | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |
| - | | | | | | |
| 関連する過去のレビューシートの事業番号 | | | | | | |
| 平成22年 | — | 平成23年 | — | 平成24年 | 新24-0030 | |

※平成24年度実績を記入。

文部科学省
212百万円

我が国の原子力関係機関が有する人材育成資源を活用し、関係機関が連携することにより、効果的・効率的・戦略的に人材育成を行う事業を支援する資金

【公募・補助金】

A. 復興対策特別人材育成事業
194百万円

大学、独立行政法人、財団法人
(全12機関)

原子力の安全や危機管理に係る人材育成活動とともに、環境放射能測定や除染、熔融燃料の処理・処分を含めた廃止措置など新たな中長期的な課題に対応するための人材育成活動等を支援する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

※補助事業者側の数字は補助事業者の決算額(実績報告書ベース)であることから、国の決算額と一致しないことがある。

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

| A.国立大学法人京都大学 | | | E. | | |
|--------------|--------------------------------|-------------|----|----|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 事業費 | 設備備品費 | 16 | | | |
| | 旅費・謝金 | 9 | | | |
| | その他(消耗品費、通信運搬費、印刷製本費、借損料、雑役務費) | 7 | | | |
| 人件費 | 事業担当職員等 | 2 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 34 | 計 | | 0 |
| B. | | | F. | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| C. | | | G. | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| D. | | | H. | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |

※補助事業者側の数字は補助事業者の決算額(実績報告書ベースであることから、国の決算額と一致しないことがある。

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 入札者数 | 落札率 |
|----|----------------|---|--------------|------|-----|
| 1 | 国立大学法人京都大学 | ・「被ばくの瞬間から生涯」を見渡す放射線生物・医学の学際教育 ・京都大学原子炉実験所における包括的原子力安全基盤教育 | 34 | - | - |
| 2 | 国立大学法人北海道大学 | 国際舞台で活躍できる原子力ヤング・エリート人材育成 | 26 | - | - |
| 3 | 財団法人放射線利用振興協会 | 教育現場の放射線危機管理力向上のための人材育成 | 25 | - | - |
| 4 | 国立大学法人長岡技術科学大 | 原子力発電リスク認識のための中学－高専－大学院高度連携教育 | 24 | - | - |
| 5 | 国立大学法人東京大学 | シミュレータと実験の融合による原子力安全エキスパート養成 | 23 | - | - |
| 6 | 学校法人金井学園福井工業大学 | 地域の原子力安全を守る技術者の育成 | 15 | - | - |
| 7 | 国立大学法人名古屋大学 | 機関横断的連携による原子力安全性・核セキュリティ・危機管理高等教育の身 | 12 | - | - |
| 8 | 公益財団法人原子力安全セン | ・リスクコミュニケーターの人材育成に向けた研修 ・原子力災害復興の輸送に対応する人材育成システムの構築 | 10 | - | - |
| 9 | 公立大学法人大阪府立大学 | 地域に根付いた放射線施設活用による関西連携指導者人材育成 | 10 | - | - |
| 10 | 株式会社東芝 | 軽水炉の炉心および耐震の安全性に関する公募型実習 | 8 | - | - |

※補助事業

※補助事業者側の数字は補助事業者の決算額(実績報告書ベースであることから、国の決算額と一致しないことがある。